じょう　がく　つう　しん
城岳通信

第20号
令和元年９月20日（金）
発行者：校長　宮里 寿子

琉球は、平和を大切にしていた。
～９月はリスペクト月間（いじめ防止啓蒙月間）～

那覇市教育委員会から夏休み明けの９月を「いじめ防止啓蒙月間」として、各学校で取り組むよう依頼がありました。そこで本校では「リスペクト月間」として、生徒指導部・道徳部・特活部を中心に人権擁護協会による「人権教育の授業」、各学年での「ふわふわ言葉の掲示」、各学級での「仲良しプロジェクト」等に現在、取り組んでいます。また、取組の一つとして、今週のお話朝会では、校長から先日他界した義父のことをもとに、いじめについてお話しました。インフルエンザの感染予防のため、体育館での朝会を避け、各クラスで放送を聞きながらの朝会となりましたが、城岳っ子は静かに聞いてくれました。以下、校長講話を記載致します。

先日他界した義父の「宮里朝光」は、琉球の歴史や文化を研究して、そのことで新聞にもよく掲載されていました。そして、琉球に大変誇りを持っていました。校長先生はお義父さんからたくさんのことを教わりました。その中でとても心に残っている教えが２つあります。一つは「琉球の人は、平和を大切にした」という言葉です。世界のお城を見てみると、ギリシャのお城の壁には鉄砲台があります。なぜなら敵が襲ってきたらすぐに攻撃できるようにするためです。日本のお城も同じように、矢がすぐ撃てるように穴が空いています。どちらもはじめから、相手を倒すことを考えて作られていますが、首里城の城壁には、鉄砲台や矢を放つための穴がありません。琉球は外国との交流が盛んでしたが、戦うのではなく話し合いで決めていたそうです。争いが嫌いだったそうです。その琉球の血を引く、城岳っ子の皆さんが、平和を大切にするためにできることは何ですか？考えてみて下さい。校長先生は「いじめをしない！相手の嫌がることはしない！お隣にいるお友達、クラスにいるお友達を大切にすること」が皆さんのできる「平和」だと思います。６月の平和集会でも、崎山さんがそう話してましたよね。そして、もう一つの教えが「琉球の人は、どんなに偉いお役人さんでも、自分より年上の人にはきちんと挨拶をし、敬っていた」そうです。敬うというのは、校長先生がいつも話している「リスペクト」のことです。相手のことを大切に思う心です。以前、いじめが起こりにくい学校として、「リスペクトする気持ち」と「ふわふわ言葉」を使うことをお話しました。そして今、各学年の掲示板にたくさんのふわふわ言葉が書かれていますね。どうぞ、平和を大切にし、相手を敬う、リスペクトを大事にした琉球の人たちの血を引き継いで、皆さんも、この二つの気持ちを大切にしてほしいです。

ぜひ、家庭でも「相手を大切に思う心（リスペクト）」について、お話ししてみて下さい。

宮里　朝光

琉球の人は
平和を
大切にした

ギリシャのお城

首里城（琉球）の城壁

城岳っ子の皆さんが
平和を
大切にするため
できることは？

琉球の人は
相手(年上)
敬っていた

敬う
Respect
（リスペクト）

ふわふわ言葉の掲示